

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題・副題

**生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～**

2 研究の視点

- (1) 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習過程の工夫
- (2) 表現力等を高めることができる学習過程の工夫
- (3) 体力の向上を図るための体育科学習を含めた教育活動の在り方

3 研究の内容

- (1) 主体的・対話的で深い学びを促すための手立ての工夫(授業研究)
- (2) 新学習指導要領に合わせた単元指導計画の作成(2カ年計画での全学年・全単元の単元計画の作成)

4 研究の組織

- (1) 授業研究班・・・体づくり運動・保健
- (2) 単元計画作成班

6年 体づくり運動:動きを持続する能力を高める運動

大塚小学校 山崎 努 教諭

6年 器械運動:マット運動

西池小学校 金丸 誠 教諭 平辺 泰代 養護教諭

研 究 班	具 体 的 な 取 組
器械運動班	マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の単元計画作成
陸上運動班	短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳びの単元計画作成
水泳運動班	クロール、平泳ぎ、安全確保につながる運動の単元計画作成
ボール運動班	ゴール型、ネット型、ベースボール型の単元計画の作成
表現運動班	表現、フォークダンスの単元計画の作成

※各領域ともに1・2年生の「運動遊び」や3・4年の内容を含む

5 研究の実際

- (1) 主体的・対話的で深い学びを促すための手立ての工夫

ア 体づくり運動

(ア) 教材の工夫

体づくり運動の中でも、「動きを持続する能力を高める運動」に焦点を当て「串団子走」を行った。児童各自の無理のない速さでの持久走ができるとともに、競争的要素をできる限り取り除くことができる本教材を適用することで、持久走に対してネガティブなイメージをもつ児童にとっても、楽しく活動ができる学習となった。【写真1】

(イ) ペア活動の工夫

ペア学習で授業を展開した。ペアが走っている時には記録したり応援をしたりした。また走る活動が終わると、自然にペアの走り方や記録について2人で話し合うなど、走者と観察者との2つの立場を交互に行うことで、より自分のペースについて考える機会となった。【写真2】

(ウ) ワークシートの工夫

主体的・対話的で深い学びを促すために、ワークシートの工夫を行った。より簡潔で、気付きを促し、課題を明確にして解決に向けて取り組めるように2つのめあて「自分のペースをつかむことができたか」「自分のペースで走り通すことができたか」を3段階の評価で記すことができないようにした。シンプルにすることで誰でも取り組みやすくし、豊かな発想で児童同士が学びあい、助け合いを基にした授業を展開することができた。【資料1】



【写真1】



【写真2】

めあて1「自分のペースをつかもう」(1回30秒)

名前()

ベースゾーン内→○ おそい→× 速い→△

月	日	回目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	次のコース
		コース											
		○×△											
		コース											
		○×△											
		コース											
		○×△											
		コース											
		○×△											
		コース											
		○×△											

めあて2「自分のペースで走り走そう(5分間)」(ペースが合っている○ おそい× 速い△)

月	日	コース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	次のコース

記録会

30秒間で
A=70m B=80m
C=90m D=100m
E=110m F=120m
G=130m

ロ パスの前後のいろいろなサインを覚えてアタリを正確に書こう
・ 準備 ・ 開始 ・ 終了
・ カウントダウン
・ サイドサイン
・ サイドサインの位置
・ サイドサインの向き

【資料1】

イ 保健

(ア) 資料提示の工夫

教科書の資料等を提示する際は、大型TVに提示し学級全体で共通理解ができるようにするとともに、養護教諭とともに検討した資料も準備・提示することで児童の関心意欲を高めることができた。

(イ) 養護教諭との連携

専門的な知識をもつ養護教諭と授業内容や説明内容の分担を行うことで、児童にとって分かりやすく、効率的に学習活動を進めることができた。また、単元を通して保健室保管の資料を学級内に提示するなどして、学習に深まりをもたせることができた。

(ウ) ワークシートの工夫

個人思考・集団指導・個人思考と自分の考えの変容に気付くことができるようなワークシートを作成した。はじめの個人思考の後の話し合いでは、自分の考えに付け加えたり、書き直したりすることで、より自分の考えを深めさせることができた。終末場面では、学習した内容を利用して自分の考えをまとめることができていた児童が多く見られた。

(2) 新学習指導要領に合わせた単元指導計画の作成

単元計画の作成では、班別に学年や運動種目を分けて担当者を決定した。班内では、各学年部や各学年での指導内容の重複や指導内容の先取りがないように、確認を行いながら作成作業を進めた。本年度は、各運動領域の活動内容を中心として作成することができた。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- 視点1については、上記のような具体的な取組を行ったことにより、児童の主体的・対話的で深い学びにつなげることができた。
- 視点2については、大まかな活動内容を全学年・全単元で作成することができた。

(2) 課題

- 視点1については、さらに研究を深め児童の深い学びにつながるような授業について考えていく必要がある。
- 視点2については、評価規準が示されていないことから活動のみの計画作成になった。今後、評価規準と照らし合わせながら、単元の流れを再考する必要がある。